

思考力を問う問題例（令和三年度以降の入試をイメージするために作成したサンプル問題・本文は令和二年度一般入試二日目出題）

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

日本人は、近年になって急速に生活スタイルを「サル型」へと、変化させている。だが退化しているのは、生活の形態にとどまらない。

ア コミュニケーションの仕方も、質が劣化しつつある。ことばを用いつつも、実は言語本来の使用の方法からはずれた、サルのなスタイルへと先祖返りしつつある。

こう書くと、そんなバカなと思われるかもしれない。サルのようにコミュニケーションをはかっているといっても、ちゃんとことばを使っておしゃべりしているではないか、サルのように「キヤー」とか「ワアー」とか意味不明の雄たけびを出しているばかりでない、と。

だが話はそう単純ではない。なるほど人間は、あくまでも言語を使って会話しているわけで、サルとは異なる。しかし、それだけで「言語的」な意思疎通をしているといいきれるかというと、そうとは限らない。

例えば、「電話」と子どもが親にいった場面を想定してみよう。これは、立派な一語文である。ただし、その意味はさまざまに解釈可能だ。「電話に出て」「電話をかけて」といった、話し相手への要求とも取れる。他方、「今電話で話している最中である」という叙述文としても、理解することができよう。では、どちらが正しいのか？

それは、「電話」という字面からでは判別できない。ふつう私たちは、発話の意味を把握しようとする際、言語の情報を手がかりに、推論によって相手が何を伝えたいのかを推しはかるのである。「でん・わ」という音の組み合わせ以外の手がかりとして、イントネーションや声の調子、また音声要素だけにとどまらず、顔の表情やジェスチャー、今、話がなされた場の状況などの要因を斟酌する。加えて、過去の記憶から話し相手に関する知識なども引き出して、総合的に相手が何を伝えたかったのかを判断するのである。

これは、いわれてみれば当たり前前のことに違いない。しかし一般に言語というのは、たいへんシンボル性の高い記号であ

るとみなされている。ひつきよう言語的コミュニケーションというのは、記号性の高い情報の伝達手段と受けとめられがちであるが、その記号の指示する意味の適切な解釈を支えているのは、全然記号的でない側面なのである。

それどころか、記号を字義通り記号として解読することは、およそ非人間的な意味理解であることが、最近の研究から明らかにされつつある。というのも、人間以外の霊長類の行う音声コミュニケーションこそ、まさにそれにあたるからにほかならない。

サルにおいても、人間の言語体系における単語のようなものの存在は決して珍しくない。人間に系統的にもっとも近い霊長類というと、チンパンジーに代表される類人猿であることは周知の通りである。逆に霊長類として進化的にいちばん下等なのは、原猿と総称されている。マダガスカルに生息しているキツネザルが典型として、よく知られていよう。

ところが、イそのキツネザルにすら、「ことば」もどきは存在する。例えば彼らの天敵にあたるような捕食動物が近づいてきた場面を思い描いてみよう。そういうとき彼らは独特の声を出す。この声を耳にすると、周辺にいる仲間（同種個体）はただちに自らの身を守る防御反応を行う。結果として群れに危険の接近を周知する機能を実行しているところから、警戒音と命名されている。

ただし、天敵の種類はさまざまである。大別しても、空からやって来るものと、地表から来るものがある。それによって防御の手段の講じ方も、おのずと異なってくる。空からの場合は、地表近くへ身を伏せた方がよい。だが、もし地表から危険が迫ってきているのに、空からのときのように逃避を企てると、とんでもないことになる。

そこで淘汰圧が働き、キツネザルは複数のタイプの警戒音を出すにいたったのだった。例えばAとBという二種類の声が存在するとしよう。空から捕食動物がやってくるとAの声を出す。すると、聞いた仲間は地表へ逃げる。他方、地表から敵が来るとBの声を出す。その際は、仲間は木の上へと逃れる。

AもBも、警戒警報である。ただしAは空からの危険、Bは下からの危険を意味している。これは、ほとんど単語による表現に近い。そういう観点では、彼らも記号的コミュニケーションを行っていることになる。

それどころか、彼らの方が人間よりも、厳密に仲間の発する音声を書号的にとらえているのである。ヨーロッパの昔話で、いつもいつも「狼おおかみが来た」とウソを村人に伝えて驚かせては喜んでいた少年の物語というのをご存知だろう。村人たちは、はじめは信じこんでびっくりしていたが、そのうち誰も信じなくなった。あげくのはてに、本当に狼が来ても誰にも助けしてもらえず、羊を食べられてしまった少年のエピソードである。

ああいうことは、キツネザルでは起こらない。彼らだったら極端なケースとして、一〇〇万回「狼が来た」といわれても、やはり逃げることだろう。警戒音の認識に、音以外の手がかりは介入しない。ともかく身の危険にかかわることだから、少々いかがわしい情報であっても、とりあえず信じた方が安全、という発想が働く。サルの理解の仕方は、柔軟性に欠けるのだ。

「柔軟性を欠く」と書くと、融通がきかず頭が悪いみたいに聞こえるかもしれない。しかしシグナルの記号としての意味作用に忠実であるという意味では、人間より抽象度の高い認識を行っていると言え換えることもできなくはないのではないだろうか。

人間は、過去の経験にもとづいて、ことばの意味理解を変えていく。反対にこのことは、発話を行う側も、常に相手に聞き入れてもらえるよう配慮して話することを意味している。そして、聞き手は相手がこちらを意識して話していることに気づいている以上、その意図を把握しつつ、発話内容を吟味する。

考えてもみよう。「君は、よく勉強するね」といわれたにせよ、それが字面通りの誉めほことばなのか、「勉強しない」ことへの皮肉なのかは、文字の配列から判断することは不可能に近い。相手の顔色を読み、状況を斟酌し、あるいは話し手の普段の言行を参照しなくてはならない。

つまり言語理解というのは、意外なほど記号的でなくて、反対に相手の心を読む（発話を手がかりに心理を推測する）過程であることがわかる。むしろサルの方がよっぽど厳密に記号類別に依拠して情報伝達を行っているのだ。

ところが、最近の日本人を観察してみると、そのコミュニケーションはこの言語進化の進んできた方向を逆行しているように思えてならない。つまり、ことばのメッセージを常に記号として把握する傾向が高まっている。そして、そういう認識

の仕方をするが実行している以上、サル的な方向へとコミュニケーションのスタイルを変えてきたという結論にたどりつくのだ。

少しむずかしく書くと、今まで述べてきた、いわゆる人間独特の言語による意思疎通はふつう、「意図明示的で推論的なコミュニケーション」と呼ばれている。「意図明示的」というのは、言語のような、指し示す対象と記号との関係が恣意的であるシンボルを媒介にして、伝達の意図があることを話し手が聞き手に明らかに示し、そのことで相手の注意をひいてますよ、ということである。

「推論的」というのは、記号そのものが指示するのみでは伝えきれない内容を、聞き手が推論して補ってやらないと、適切に情報の授受ができないということを意味している。注意を話者に向けるように仕向けられた聞き手は、耳にしたことばを実はほんの手がかりにしているにすぎない。そこを突破口にして、話し手が意図した解釈にたどりつくべく推論して初めて、言語的コミュニケーションは成立するのである。

この人間が行う推論過程の原理やメカニズムを解明することの重要性は、ことばを扱う科学の中でも、ごく近年、認識されはじめたばかりである。そういう言語科学の中の領域は、語用論と呼ばれるようになってきている。

そして、語用論研究によって初めて認められるようにいったった、ことばを理解する上での人間の能力は、語用論能力という名称で知られるようになってきた。これは人間の行う認知情報処理の中の発話解釈に関与する側面に対応する。

こうみてくると、昨今の日本人のコミュニケーションの特徴である「サル化」とは、すなわち語用論能力の衰退と表現することができる。そして、その傾向の背景としては、社会のIT化、人間同士の情報伝達がケータイしろもののような代物への依存度を大きく増したことが考えられるのだ。

(正高信男著『考えないヒト』に基づく)

【出題例A】

- 問 傍線部ア「コミュニケーションの仕方、質が劣化しつつある」とあるが、筆者の論に沿った場合、どのような力が劣化していると考えられるか。次の①～④の中から最も適切なものを一つ選べ。解答欄は【マークシート解答用紙】※
- ① 言語情報を手がかりにして対話を重ねながら相手の真意を記号化して抽出する力。
 - ② 相手の発する音声の指し示す意味を厳密に記号的に把握する力。
 - ③ わかりやすく相手の心に残る言葉を使って発信する言葉の力。
 - ④ 発話を手がかりに話し手の顔の表情や場の状況を勘案して相手の心を読む力。

【出題例B】

- 問 傍線部イ「そのキツネザルにすら、『ことば』もどきは存在する」とあるが、筆者はどのような点を指して「ことばもどき」だと言っていると考えられるか。次の①～④の中から最も適切なものを一つ選べ。解答欄は【マークシート解答用紙】※
- ① キツネザルの警戒音に込められた意図が記号として相手に通じているという意味では人間のことばと似ているが、人間のように過去の経験に基づいてことばの意味理解を変えていく言語的意思疎通を行っているわけではない点。
 - ② キツネザルが天敵の存在に気づいたときに発する警戒音は人間の言語体系における単語による表現に似ているが、人間が用いる警戒音の単語の種類の数と比べて、圧倒的に少数である点。
 - ③ 最も下等な霊長類であるキツネザルの警戒音は、一見、危険に直面した人間の悲鳴に似ているように聞こえるが、人間に系統的にもっとも近い霊長類であるチンパンジーは表情やジェスチャーを用いてより複雑な音声コミュニケーションを行う点。
 - ④ 危険が迫ったときにキツネザルが仲間どうしで行う簡潔な音声コミュニケーションは、人間がとつさに発する警戒

を意味することばに似ているが、人間のほうが、よりの確に記号類別に依拠した抽象度の高い情報伝達である点。

【出題例C】

問 問題文全体を踏まえた上で成り立つ考え方を、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は【マークシート解答用紙】※

- ① 日本人はIT技術の発展により大きな恩恵を被っているが、その便利さがもたらす思考力の衰退が古き良き日本文化の喪失を招きかねないと考えられる。
- ② 情報伝達的手段として携帯電話への依存度が高まるつれ、間接的な人間関係が強まり、今後は記号的コミュニケーションは弱まっていくと考えられる。
- ③ コミュニケーションの「サル化」とは、ことばのメッセージを常に記号として把握することであり、それ以外の手ごかりを排除することによって、今後、サルが行うような抽象度の高い認識が人間にも可能となると考えられる。
- ④ 人間とその他の霊長類の言語コミュニケーションにおける相違点は語用論能力の有無であり、この力を向上させることによって人間独特の意思疎通である意図明示的で推論的なコミュニケーションが成立すると考えられる。

【出題例D】

問 問題文全体を踏まえて筆者の用いた論理展開をどのようにとらえるべきか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は【マークシート解答用紙】※

- ① 筆者は、まず具体例をあげて人間の言語的な意思疎通の方法を説明し、次に人間とサルのコミュニケーションにおける類似性について詳しく述べ、最後に日本人の言語理解力の衰退に歯止めをかけることの重要性を訴えている。
- ② 筆者は、まず実体験を通して日本人のコミュニケーション上の問題点を指摘し、次に他の霊長類に学ぶ音声コミュニケーションの重要性を訴え、最後に今後のコミュニケーションのあり方に強い危機感を示している。

【出題例E】

問 筆者の論に近い考え方はどれか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は「マークシート解答用

紙」※

- ③ 筆者は、まず昨今の日本人の生活スタイルやコミュニケーションの質の変化について自分の見解を述べ、次に人間とサルとのコミュニケーションのとり方を比較したうえで本来あるべき人間の言語理解における特徴を指摘し、最後に日本人のコミュニケーションに変化をもたらした要因について言及している。
- ④ 筆者は、まず日本人のコミュニケーションにおける質の劣化を指摘し、次に人間とサルのコミュニケーション方法の比較によって劣化の原因を明らかにし、最後に今後起こり得る現象などの展望を述べている。

- ① 携帯電話を代表とするIT技術の導入は、コミュニケーションの促進や教育・業務の効率化などメリットが大きいことは言うまでもない。一方で個人情報の保護などのセキュリティ対策が欠かせない。プライバシーの尊重は人類社会特有の考え方であり、この点を軽視すればサル型社会に逆行りしかねない。

- ② 一九九〇年代以降、インターネットの急速な普及によって情報技術が進化し、利便性を獲得した人々の生活スタイルは大きく変化した。一方、コンピュータウイルスや迷惑メール、ネット上の誹謗中傷、詐欺犯罪等、社会のIT化に伴って増加してきたインターネットやコンピュータを利用した犯罪対策が急務となっている。

- ③ 現代社会において、日常の通信やデータの記録、検索、通信販売、決済まで、生活の多くのことが携帯電話に委ねられ、携帯電話は進歩と快適さを追求してきた文明の象徴とも言えるが、一方で、思考力の衰退や言語コミュニケーション能力の低下問題は新たな課題として対応が迫られるようになってきた。

- ④ 携帯電話が広く普及した現代、誰でもが簡単に多様な情報に接することが出来る反面、氾濫する情報を取捨選択し吟味する能力が未熟なために起こる思考力の衰退や、IT技術習得をめぐる情報格差などの問題が顕在化している。

広島経済大学 一般選抜【思考力を問う問題例】

※実際の入試では、思考力を問う問題の配点は、満点の10%程度となる予定。

【解答】

出題例 A

④

出題例 B

①

出題例 C

④

出題例 D

③

出題例 E

③

サンプル問題につき、問題内容・解答についてのお問い合わせにはお答えできません。ご了承ください。